

☆ きんひが通信

令和元年9月19日
〈第24号〉
校長 平塚智康

収穫できる幸せ ～5年生 稲刈り体験～

9月13日（金）、5年生の稲刈り体験が行われました。5月に田植えをした苗は順調に生長し、黄金色になった稲穂を、みんなで協力しながら刈り取りました。



初めて体験した稲刈り

9月13日に稲刈りをしました。その日は、天候にめぐまれてとてもいい日でした。そんな中、私たちは、坂野さんと敷村さんの教えのもと、稲刈りを体験しました。

最初にコンバインが田んぼに置いてあったときはすごかったです。大きくて迫力がありました。それに、この機械のない時代の稲刈りは大変だっただろうなあと考えました。稲刈りは、クラスみんなでやったから、すぐ終わったけど、これが1人だと大変だと思いました。みんなで稲をコンバインまで運ぶと落ち穂がいっぱいでできました。最初は数人の人しかやっていませんでしたが、みんな少しずつ気づき始め、みんなが協力してたくさん落ち穂を拾うことができました。うれしかったです。

本当に稲刈りは大変でした。やり終わったときには汗がたくさん出ました。でも、これからお米になるまでも大変です。しかも、昔は機械などない時代だから、とっても大変だったんだなあとと思いました。

Ⓟ 機械のない時代の稲刈りがどんなに大変だったろうと、手作業で稲刈りを体験してみて、強く実感したのですね。また、落ち穂拾いを一生懸命がんばっていましたね。長い時間をかけて一生懸命育ててきたお米を、一粒でも大事にするという大切な作業です。地味だけど大事な仕事をがんばれることがすごいなと思いました。

先生は、子どもの頃、ご飯のあと、お茶碗にご飯粒が一つついていただけでも「ごはん一粒に神様が八十八人いらっしゃるんやぞ。ばちあたるわ。きれいに食べなさい。」とおばあちゃんに叱られたことを思い出しました。

九州北部では、大きな水害が起こり、お米の収穫ができなかった農家もたくさんあるということ、みんなもニュースなどで見ましたね。こうしてお米を無事収穫できたことを喜び、またお世話して下さった坂野さん、敷村さん、そして自然に感謝したいですね。（今、日本各地で行われている秋祭りの多くは、もともとはお米などの農作物の収穫を村人みんなで喜び合い、自然や神様に感謝するために行われていたのです。）

登下校の時間は、貴重な学びの場

先日、朝校門前に立っていると、1年生の男子3人組が、何やらさわがしく、でも楽しそうに歩いてきます。「わぁ～、毛虫のしがい、いっぱいある。」「ほんとや。きも～い。」「あっ、こっちにもある。」「さわったら、いかんのやぞ。」「そ～や、かゆくなるんやぞ。」・・・(そのうちの1人は、5月頃まで、車で学校駐車場まで来ていましたが、6月頃から歩いて登校するようになった子です。初めは、お兄ちゃんと登校していましたが、最近は同じ学年の男の子たちといっしょです。)

ことさら特別なことではありませんが、私にはとても微笑ましい光景として、目に映ります。教育という営みにとって、こうしたちょっとした発見や友達との会話のある日常の積み重ねが、とても大切なことだと思っています。

虫の鳴き声、秋の風、キンモクセイのにおい、木々の色づき・・・子どもたちは、毎日同じ道を登校するからこそ、自然のうつろいを五感で感じることができ、**感性が研ぎ澄まされて**いきます。そして、たわいもない友達との言葉のキャッチボールも、子どもたちの**コミュニケーション能力**や**人間関係力**の育成に役立っています。

また、歩いて登校する活動の中には、**忍耐力や社会性、感情コントロール力**といった「**非認知能力**」(人間として生きていく上で大切な力。学力のように点数では測ることができないが、社会で成功する人の多くは、この非認知能力が高いという研究結果もある。)を高める教育的要素もたくさん含まれています。

さらに、歩いて登校することは、軽いウォーキング運動(ランドセルを担ぐことによって負荷もかかっているので、さらに良い運動となっている。)であり、血流を良くし、眠っていた脳を覚醒させ、**1限目から明るく元気に、エンジン全開で学習に取り組むことができます。**

登下校は、子どもたちにとって、とっても貴重な学びの場です。暑さもやわらいできて、外を歩くのもとても気持ちの良い季節となりました。子どもたちを、学校の手前(セレモニーホール高田さんの駐車場など)で車から降ろし、少しの距離でも、歩いて登校させることを、教育的観点からもおすすめします。

★「セレモニーホール高田」

さんのご厚意で、登下校の際、セレモニーホール高田さんの駐車場を利用することが可能となっております。

